

(様式2)

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590500193		
法人名	社会福祉法人 柏崎刈羽福祉事業協会		
事業所名	グループホームまつみ(2ユニット共通)		
所在地	新潟県柏崎市松美1丁目5番10号		
自己評価作成日	令和元年 9月 21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2丁目2-2新潟ユニゾンプラザ3F		
訪問調査日	令和元年 11月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成27年3月に開所した事業所で、併設する小規模多機能型事業所と連携体制を取っています。閑静な住宅街の中に立地し、家庭的な雰囲気づくりを大切にしており、利用される方お一人おひとりの生活リズムを尊重しながら、地域住民の一員として生活して頂けるよう努力しています。地元のコミュニティセンターや地域の集会所も徒歩圏内であり、地域の行事に積極的に参加させていただいております。また、地域交流ホールやポケットパークを整備し、地域の方に気軽に立ち寄って頂ける施設を目指しています。

・毎月の行事や花壇、畑の様子などを通じて四季を感じて頂けるよう務めています。また、日々の生活の中で役割を持って頂き、その人らしい楽しみや生きがいを持って過ごしていただけるよう、支援しています。

・個別ケアにも力を入れており、グループホームに入所したからといってこれまでの楽しみや今後してみたい事を諦めずに担当職員と話し合い計画を立て実行へと繋げています。

・生き物が好きな利用者様が多く生活されている為、当施設でもアクアリウム・アニマルセラピー等を行い、居心地の良い生活空間の提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内中心部に近い比較的新しい住宅街の中に立地している。周辺の通りは小学生の通学路にもなっていることから日常的に子どもから高齢者まで幅広い年代の住民が行き交い、生活の気配を感じさせる。事業所が立地する地域は、平成19年の中越沖地震で大きな被害を受けた過去があり、住民同士がまとまり、復興・復旧に力を合わせてきたことから互いに助け合う意識が高く、安心・安全で住みやすい街づくりが進められ、事業所の開設も地域の街づくりに寄与してきた側面がある。

事業所は小規模多機能型居宅介護事業所を併設する地域密着事業所として開設し、事業所名やユニット名は住民の公募で、地域にゆかりのある名称にしている。地域とともに歩み出し、今では松美地区の中核を成し、地域の共有財産として住民の穏やかな生活を支える大きな存在となっている。事業所周围の花壇や畑は地域の方々の厚意によってきれいに整備されている。事業所内外の地域交流スペースは、地域の方々が普通に立ち寄り、会議室は町内会の会合の場所として利活用されており、利用者とは自然な交流が図られている。

法人で唯一の地域密着型サービス事業所として、職員は利用者が地域の一員として生活し、家庭(事業所)内で自分の役割を担っていくことに意義があると考え、「まごころ」を持って、利用者一人ひとりの「想い」を大切に寄り添うように支援している。一人ひとりの力を引き出す個別支援に重点を置いて取り組みを進めており、利用者自身が暮らしを支える側となり、「想い」をつないで形にした「みんなで暮らす家」を実現している。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を正面玄関に掲示しています。事業所独自の理念を接遇委員会にて検討し、「まごころと想いをつないでみんなが暮らせる家」という理念を作り、職員で共有をしました。事業所理念は正面玄関とユニット内に掲示しています。	理念は平成27年3月開設時に作成し、玄関や食堂に掲示して職員がいつでも確認できるようにしている。職員は一人ひとりの「想い」を丁寧に受け止め寄り添う個別ケアを実践している。職員は、利用者が地域の一員として、また役割を持って自分らしい生活を送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し清掃活動や防災訓練に参加しています。町内の行事にも参加させていただき、七夕祭りや花見会に利用者と職員で参加させていただきました。10月にはコミセン祭りに利用者と職員にて参加させて頂き、手作りのクッキーを販売する予定です。	町内会に加入して地域活動に参加する等、積極的に地域と交流している。事業所でのできごとや利用者の様子をまとめた「まつみ通信」を地域へ回覧して情報発信に努め、お互いが声をかけ合ったり、相談に行き来したりの関係があり、利用者や事業所が地域の一員として暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や利用者家族向けに認知症サポーター養成講座を開催しています。RUN伴に職員と利用者様から参加して頂き、地域の方に認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを伝えています。実習生の職場体験の受け入れを行っており、施設の取り組みを紹介しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能事業所と合同で開催しています。利用者様や家族の参加、他事業所に委員をお願いし、利用状況や行事の様子をお伝えしたり、サービスに関する協力や助言、指導を頂いています。	利用者や家族の代表、町内会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センターや近隣の地域密着型サービス事業所の職員が参加して、2か月に1回実施している。事業所内を見学してもらったり、写真入りの資料で利用者の様子や事業所の取り組みを報告して理解を深めてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、市役所の介護高齢課の職員1名・地域包括支援センターの職員1名に参加をお願いし、事業所の報告をするとともに意見を頂いています。	市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の取り組みについて理解が得られている。市担当者とは日常的に電話やメール等で連絡・報告・相談をしたり、申請書類を持参したり、市主催の地域密着型サービス事業所の会議に出席したりして顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、施錠等は行っていません。身体拘束廃止マニュアルを作成し配布しています。今年度も身体拘束・虐待防止委員会にて勉強会を行っています。	管理者が身体拘束・虐待防止委員長として、全職員を対象に身体拘束や虐待に関する研修会を実施し、併設事業所も含めた全体で利用者の尊厳と人格の尊重、リスクマネジメントに取り組んでいる。利用者一人ひとりのリスクを家族とも話し合い、職員の手薄な時間帯にはセンサーコールを使用することもあり、利用者の安全を確保しながら身体拘束をしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会にて5月、9月、11月、2月の計4回勉強会を行います。6月には県社協の研修、9月は研修委員会にて虐待、身体拘束防止研修を行いました。10月法人内での研修参加予定。虐待につながる不適切ケアについて学ぶ機会を多く取り入れています。	法人や事業所において全職員を対象に虐待防止に関する研修会を実施し理解を深め、遵守に向けて取り組んでいる。管理者は特に不適切ケアについて問題意識を持っており、不適切な言葉がけや対応があった時には注意している。職員は年1回「自己点検シート」を実施して支援を振り返り、気づきを得る機会があり、虐待防止徹底の意識付けを図っている。管理者は職員の疲労やストレスにも注意を払い、ユニットを回り声がけをしたり、個別面談をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方、成年後見人の手続きが必要な方がいれば包括支援センターや社会福祉協議会と連携して支援をしています。また、法人内の研修に参加し制度への理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前出来るだけ見学をしていただき、不安や疑問に思われたことにお応えしています。利用開始前に契約書・重要事項説明書についてご家族に説明を行い承認を得てから利用を開始していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置しています。日常生活や会話の中から利用者の思いや要望を確認し実現に向けて取り組んでいます。ご家族様へは面会時や電話連絡の際に要望等を気軽に言って頂けるよう話をしたり、声に出して頂ける関係作りに努めています。	利用者との日常の関わりを重視し、意見や要望を汲み取るようにしている。特に入浴時は利用者の本音を引き出せる大切な時間と認識し、コミュニケーションを図っている。家族には、来訪時に直接意見や要望を聞き取るようにしている。家族から土日祝日の連絡対応や利用者の体調について確認や意見があり、事業所の体制や支援に反映させている。	利用者や家族は支援を受ける側であり、心情的に意見や要望等を出しづらい立場にある。直接聴取する工夫や努力をされているが、アンケートや満足度調査等の方法も考えられる。質の高い個別ケアを提供するためにも利用者や家族からの意見や要望等を把握することは重要であり、今後の取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用や毎日のミーティング、日々の話し合い等で意見の交換や提案を聞く機会を設けています。また、全職員を対象に個別の面談も実施し、直接意見を聞き業務に反映できるよう努めています。	管理者と職員は、日頃から直接意見交換や提案を合っている。管理者は職員一人ひとりが年度の目標を設定する「私の目標」の振り返りの機会に面談し、自由に意見や提案を表出できるよう配慮している。管理者は職員の意見等を尊重し、より運営や利用者への支援に反映できるように調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、職員が向上心をもって勤務できるよう努めます。資格取得に対する支援も行い、スキルアップ、キャリアアップの体制を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の施設と研修の協力体制を取っています。外部研修にも積極的に参加し、研修における復命書を回覧することで研修の学びを共有しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や市内の事業所連絡会などに参加しネットワークづくりや、情報交換、サービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に自宅やサービス事業所へ訪問し生活状況の確認や、本人・家族との話し合いにより生活歴、背景を知ったうえで本人の思いを理解し受け止め、安心して生活して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族との面談で不安や要望等確認しています。また本人に対する生活の意向を確認し、サービス計画書に反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談にて、本人・家族の困っている事を聞き取り必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービスについての説明も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作り、生活の中で出てくる家事全般を利用者と職員で一緒に行うようにしています。家庭の延長上となるよう自分で出来ることはして頂き、役割を持ってもらう事によって自分の居場所と思ってもらえるようにします。		
19	(7-2)	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、受診、居室の環境作り等、ご家族からのサポートや協力が施設での生活には欠かせない要素として捉えており、ご家族しかできない関わり方等を願います。話し合いの結果を会議録に残し、職員にも周知しています。	利用者にとって家族はかけがえのない大切な存在であり、家族と過ごす時間は大切と考え、入居後も家族とのつながりが途切れないように支援している。家族には外出や外泊、季節の衣替えや日用品の準備、通院の付き添い、行事への参加等を願って協力を得ている。家族とは日頃から密に連絡を取り合い、年に数回「まつみ通信」を送付して本人の生活の様子を伝えて情報共有している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の利用を継続して頂いている方がいます。知人や近所の方が面会に来て下さる事もあり、これまでの関係が途切れないように努めています。個別ケアでも本人様の希望にて、久しぶりに実家に訪問し、近所の友人と懐かしむ姿も見られています。	利用者や家族、知人・友人等、利用者の昔を知る様々な人たちから馴染みの人や場所の情報を得ながら、一人ひとりにとっての馴染みの関係が途切れないように支援している。将棋や生き物の飼育等の趣味を継続してもらったり、家族や友人に手紙を出したり、墓参りに出かける等、本人の希望に応じた個別の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、食事の席を工夫したり、個別の活動や役割を提供しています。利用者同士で声を掛け合って家事をされたり、介助が必要な利用者に対し、他の利用者が手助けする場面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスの利用が終了しても、必要に応じて面会や相談、支援に応じ、情報提供や他サービスの利用につながるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当介護員と計画作成担当者を中心に、生活の中で利用者の思いや考え等把握し、要望に対応できるよう心がけています。思いは職員で共有するよう「私の気持ちシート」に記載し、必要に応じてカンファレンスやケアプランに反映させています。今後も個別ケアの取り組みに重点を置き利用者の方が、グループホームで生活するようになったから、今後してみたい事や以前していた事を諦めるなどないように職員と利用者で協力し、計画を立て個別ケアを実現へと繋げていきます。	利用者個々の担当職員と計画作成者が中心になって思いや意向を引き出すように努めている。利用者との日常の関わりの中で言葉や仕草、表情等を観察し、本人の言葉や気づいたことを「私の気持ちシート」と「気づき共有シート」にそれぞれ記載して情報を整理し職員間で共有している。把握した思いや意向を実現するために一人ひとりに「個別ケア日記」を作成して計画的に取り組む仕組みがある。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との関わりの中で、これまでの暮らしぶりや環境を把握するようにしています。特にその方の背景をまず知ることから初めています。職員間での情報交換を行い、共有するようにしています。	入居時には利用者や家族、必要な関係者から情報を得て把握に努め、「フェイスシート」に整理している。入居後も継続して生活歴や生活習慣、趣味、嗜好等、入居前には把握しきれなかった情報を利用者や家族、関係者との日常の関わりの中から得て把握に取り組み、「連絡ノート」や支援経過に記載して職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新入所される方で、事前情報が少ない方の場合、24時間シートを記入し、その方をより把握できるようにしています。本人の意向を確認しながら、本人のペースを大切にし、過ごして頂けるようにしています。また、ご自分で出来るところはいただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を確認し、カンファレンスを行い現状に応じた介護計画を作成するよう努めています。	利用者や家族の意向等の把握やアセスメントは計画作成者と担当職員が共同で行い、ユニット会議で話し合い、計画作成者が意見をまとめて介護計画の原案を作成し、利用者や家族が参加するサービス担当者会議を経て、介護計画を作成している。利用者の状態に応じてかかりつけ医や看護師からも意見聴取して介護計画に反映させている。モニタリングは6か月ごとにユニット会議で行い、必要時は見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット端末を利用し、さらに申し送りノートや気づき共有シートで職員間の情報共有を行い、支援内容の工夫を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やニーズ・ご家族の希望、その日の体調や天候など様々な要素を考慮し、その方の生活リズムを大切に考え、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の一員として、地元の町内行事に参加させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に通院を行っている。家族が付添ができない際には、事業所にて対応ができるようにしています。かかりつけ医とは、手紙や付き添いにて関係作りを行っています。	利用者や家族が希望するかかりつけ医の継続を支援している。受診は基本的には家族対応であるが、利用者の状態によっては事業所で送迎したり、職員が付添って支援している。受診時は家族に日頃の様子や健康状態等を口頭または文書で伝え、結果の申し送りを受ける等、利用者の健康管理を共有している。かかりつけ医とはいつでも連絡や相談ができるように連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する小規模多機能と兼務の看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じ相談や対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院に出向いたり電話にて状態確認や病院関係者との情報交換を行っています。また、カンファレンスにも参加し退院に向けた調整も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方、終末期の方は現在いませんが、法人内で終末期のケアについての研修があれば職員の参加を考えています。	職員は法人の研修を通じて重度化や看取りの支援について学んでおり、事業所としては重度化や終末期の支援について利用者か家族の意向に添い対応したいという思いはあるが、設備面等の問題があり、最期まで事業所で過ごすことはできない。入居時や入居後の状態変化に応じて随時本人や家族と話し合いを行い、事業所のできることを、できないことを説明して、利用者がより安心して過ごせる住まいを検討している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修委員会で緊急時を想定したロールプレイを行いました。また夜間帯の緊急対応時の職員体制、連絡体制についても研修を行い職員に周知しています。法人内の施設にて実施された普通救命講習にも参加し、急変時の対応の訓練を行いました。また、不審者対策として防犯カメラと催涙スプレーを設置しています。	職員は消防署による救命講習（AEDの取り扱いを含む）を受講している。事業所では高齢者に起きやすい誤嚥や転倒事故、急変、感染症等について実技で学んでおり、普段の業務の中でも看護師から急変時の対応について指導を受けている。各ユニットには救急車要請の手順書や医療機関の連絡先一覧が掲示され、職員はいつでも確認して対応ができるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して防災委員会にて計画した避難訓練を行っています。火災、地震想定の実施し、夜間想定非常呼集訓練も行っていきます。地元消防団、地域住民、消防署立会いの訓練も実施しています。	災害時は法人内でのバックアップ体制がある。併設事業所と合同で毎月昼夜の火災や地震を想定した避難訓練を実施しており、年に1回は消防署や地元消防団等の協力を得て行っている。現在停電時の対応について法人内で具体的な対応を検討しており、今後は原子力災害についても検討していきたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を傷つけないよう言葉使いにも配慮しています。また、接遇委員会を中心に、言葉かけの見直しを行っています。	職員は利用者一人ひとりに対応した言葉かけや対応の方法を決めて、常に利用者を尊重し、誇りを傷つけないように接している。管理者は、利用者との距離感が近くなりすぎないことが大切と考え、注意を促しており、職員間で気づいたことは話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の一つ一つの動作や作業の中で、常にご本人に声かけをし、意向を聞きながら活動をして頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課に沿いながら、一人ひとりのペースや生活リズム、要望の把握に努め、その人らしく過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人と選び、気候にあった本人の好きな服装をして頂いています。理髪についてもご本人の要望を聞いて利用して頂いています。起床時にはご自分で、洗顔され乳液を付けて化粧をされる方もいられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、下ごしらえ、味み、後片付けなどを職員と共に頂いて頂き、昼食は職員と一緒に食べ感想を言い合いながら楽しく食事をしよう努めています。	食材チルドを使用して、利用者一人ひとりの能力に応じて配膳や盛り付け、後片付け等の役割を担ってもらい、一緒に行えるように支援している。行事の際には畑で採れた野菜を使い、食材を購入して利用者と一緒調理から行っている。利用者が好みを選択できる楽しみとしてスペシャルメニューやイベントメニューがあり、また外食や出前、ホットケーキやクッキー作り、流しそうめん等を楽しんでいる。	食事は利用者にとってとても大切な時間であり、生活の中での楽しみの一つでもある。食事中は可能な限り職員も一緒にテーブルにつき、会話をしながら楽しい食事となるように今後の取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託している担当栄養士の献立を基に食材が配達され、食事を提供しています。食事量についてはケース記録に記載することで把握し、必要に応じて補食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じ、介助を行っています。就寝前には義歯洗浄を行い、清潔保持に努めています。また、協力歯科医院による口腔ケア指導も予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのしぐさ、表情や様子から排泄サインを察知し、その人に応じたさりげない声かけで誘導しながら、トイレでの排泄ができるよう支援しています。また利用者の排泄状態を見ながら、リハビリパンツ対応から布パンツ対応に変更し、以前の自分に少しでも戻って頂ければと思っています。	必要な人には排泄チェック表を用いて個別の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。利用者に適した下着や排泄用品を検討し、時間を見ながら声かけ・誘導を行い、日中は全員がリハビリパンツまたは布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の状況を把握し、看護師、主治医との連携も図りながら、個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本となる入浴予定表により、その方の体調や希望によって、日時を変更しながら入浴して頂いています。入浴が困難な際は清拭や、シャワー浴、足浴等で対応しています。	入浴は利用者の希望を反映して、時間を決め、週2回以上の入浴を支援している。夏場や利用者の状況によっては清拭等で対応している。入浴介助は職員が一对一で会話を楽しみながらゆっくりと行い、一人ひとりに合わせて湯温を変えている。しょうぶ湯やゆず湯等の季節ごとの入浴も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて休息して頂いています。又、安心して気持ちよく休まれるよう環境整備に努め、季節ごとの寝具の入れ替え等支援を行っています。ご家族様からも以前、自宅で愛用していた布団や電気毛布を持参して頂き、より気持ち良く入眠できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法、副作用について説明書にて確認しています。症状の悪化や状態変化時には看護師、主治医に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎ、食堂掃除、食器拭き、洗濯たたみ等、日常生活の中で、その方が得意とする事を役割としてやっていただき、やりがいを感じ活躍できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど季節や天候に応じて随時行っています。白鳥見学や紅葉狩り等、季節にあった外出計画もあり、地元の七夕祭りや春祭りにも参加しています。また個別ケアにてその方の要望をお聞きし、担当職員と楽しめるよう計画し、実施しています。今までに利用者の希望にて水族館や蜷川観賞、弥彦神社や足湯、お墓参り等に出掛けています。	地域の一員として生活することが大切と考えており、天気の良い日には事業所周辺に散歩に出かけたり、屋外での日光浴を楽しんだり、ごみ出し等を行っている。利用者の外出ニーズを把握して、外出計画を立てて遠方に出かけたり、年に1回は一人ひとりに対して個別の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては金銭管理をしておらず、原則ご家族の管理となっています。個別にお金を持っている方がおり、必要に応じて買い物の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙などやり取りが出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では季節を感じられるように装飾を変え、中庭には野菜や花を置いて四季を感じて頂いたり、ベンチを設置し、その季節に応じた風や日光を自由に感じて頂いています。利用者様の希望を聞きながらホールや部屋では冷暖房を調節しています。生き物が好きな利用者様が多いユニット内では熱帯魚水槽2つとハムスターを飼育し、アクアリウム・アニマルセラピーを行い、利用者様から喜ばれています。	食堂は中庭から暖かい光が差し込み、全体的に明るく清潔感がある。季節に応じた手作りの飾りつけや行事での写真が飾られ、熱帯魚やハムスターを鑑賞しながらゆったりと過ごせる環境づくりがなされている。中庭のベンチや地域交流スペースでは一人での時間を過ごせ、利用者はその日の気分や好みで居場所を自由に選択している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の食堂の他に交流ホールや中庭のベンチ、各個室等、本人が好きな場所で過ごしていただけるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に使い慣れた家具や思い出のあるものを持ち込んでいただくようお願いをしています。必要に応じては冷蔵庫を部屋に設置され、ご自分で飲み物等も管理されている方もいられます。	自宅からの持ち物や馴染みの物品の持ち込みは少なめだが、過度な飾りつけは行わず、本人や家族と相談しながら落ち着いて過ごせる居室づくりに努めている。プライバシーが守られるように全室に内鍵がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの安全な環境を整え、施設生活では自宅で困難であった動作も自立して行えるよう支援しています。自分の出来る事は自分でして頂き、ご本人の残存機能を引き出せるよう声掛けをさせて頂いています。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				